

Ⅲ. 北海道港湾の基本的役割

1. 日本の暮らしを支えます

北海道港湾は、

- ・我が国の食料基地である北海道の食料輸送拠点としての役割を果たしてきました。これからは、更なる輸送コストの縮減や、スピードアップ等、質の高い輸送を可能にする機能を強化します。これにより、低コストで安定的に食料が供給できるようになります。
- ・良好な自然環境が活かされた北海道観光の玄関口としてや、海の観光拠点としての役割を果たしてきました。これからは、旅客船ターミナルの拠点的配置、自然環境との調和や景観に配慮した港湾を形成します。これにより、北海道観光をより快適に楽しめるようになります。

北海道港湾は、これからも、食料や観光面で、日本の暮らしを支えます。

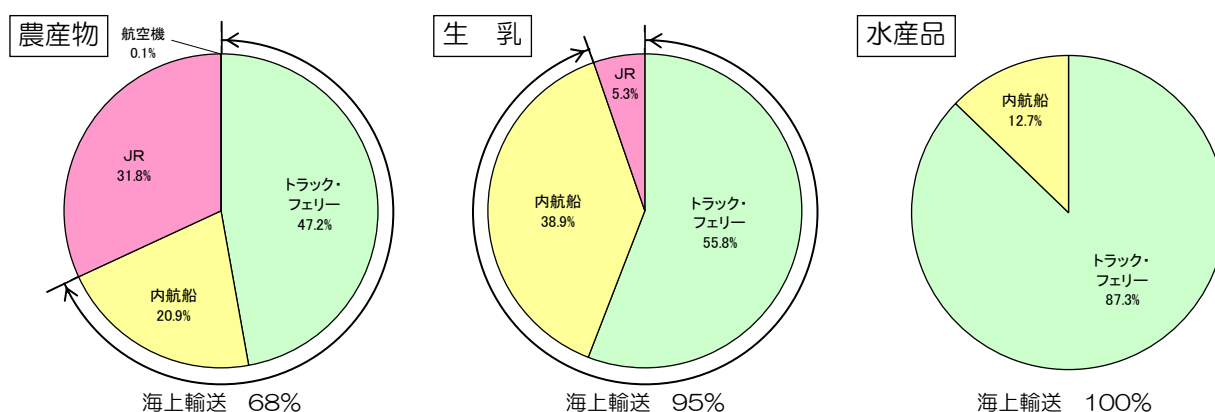
食料基地として日本の暮らしを支える北海道港湾

北海道は、全国の20%の食料を生産し、特に生乳に関しては全国の43%、漁獲量については、全国の29%を占めるなど、まさに日本の国民が健康で豊かな生活を送るために欠かせない食料の供給基地となっています。

この中で、全国の29%を占め、日本の食卓を彩る北海道の魚介類は、漁港だけでなく港湾からも陸揚げされており（北海道全体の水揚量のうち約45%が港湾取扱：平成11年実績）、これまで漁船が陸揚げや準備などに利用する小型船だまりについて、その機能充実に努めてきました。

また、農産物をはじめ、北海道における食料品の本州への輸送は、四方を海で囲まれていることから約90%が海上輸送に依存しています。

例えば農産物の道外出荷については68%が、生乳については95%が、水産品はそのすべてが港湾から海上輸送で本州に運ばれ、スーパーなどの店頭と並びます。これらの貨物の北海道から本州への海上輸送を担っているのが主にフェリーや RORO 船といった直接トラックが乗り込むか、シャーシと呼ばれる荷台だけを載せる形式の船舶であり、これまでこれらの船舶が接岸・荷役可能な内貿ユニットロードターミナルを整備してきました。



海上輸送による道外移出の割合

農産物・生乳 出典：H12 農畜産物および加工食品の移出実態調査(北海道農政部)をもとに作成

水産品 出典：H11 貨物地域流動調査(国土交通省総合政策局)をもとに作成

【用語メモ】

内貿ユニット・ロード・ターミナル：雑貨輸送を担うコンテナ船、RORO 船、フェリーなどによる輸送に応じたターミナル

近年日本各地の店頭には、中国などからの低価格な生鮮野菜が多く並ぶようになってきました。これに対し北海道では、日本の食料基地として今後品質の良さなど付加価値の高い食品を提供する必要があるものと考えます。このため、今後は従来から問われている輸送コスト縮減に加え、スピードアップや品質保持など質の高い輸送が求められます。

このためには、ITなども活用しつつ、効率的な内貿ユニット航路ネットワークの形成や、拠点ユニットターミナルの高度化、TSLへの対応などの機能強化を図ることにより、野菜、水産品、生乳などの食料品が安定的に日本国内に供給されるようになります。また水産支援基地の形成を図ることにより、本州への水産品の安定供給に貢献します。さらに、他の交通機関とも連携しながら輸送ルート多重性(リダンダンシー)を確保することにより、災害時において本州への食料の供給を安定的に行えるようになります。



内貿ユニットロード定期航路就航港湾(離島航路及び休止航路は除く)
(平成14年3月現在)

観光拠点として日本の暮らしを支える北海道港湾

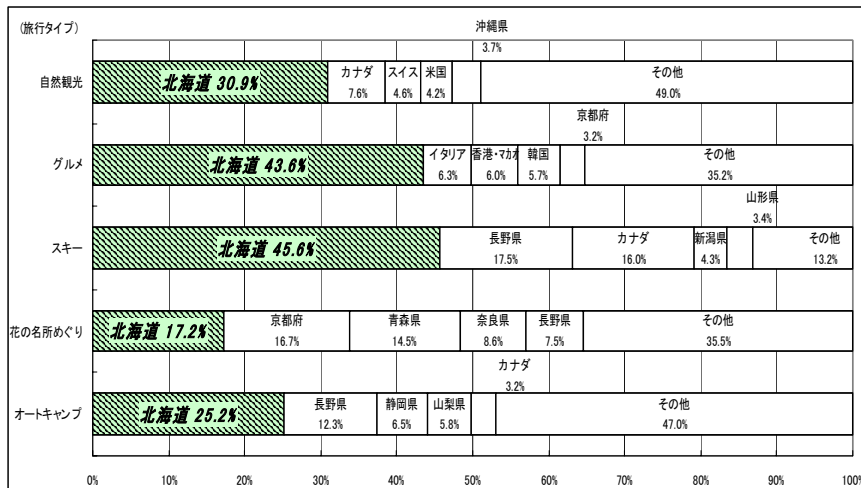
観光は、国民生活に生きがいや安らぎを生み出し、ゆとりと潤いのある生活に寄与するものであります。その中で北海道の人気は非常に高く、海外を含めて最も行ってみたい旅行先に挙げられています。タイプ別には自然観光やグルメが海外を含めても1位であるほか、自然現象鑑賞や秘境ツアーといったものも国内1位の座を占めています。これも、北海道には自然、おいしい食べ物、流氷をはじめとした気象・海象など、他の地域にないものが多く、人気を集めている要因かと考えられます。

人気ナンバー1の北海道ではありますが、港湾においても、函館港の赤レンガ倉庫群や小樽港の小樽運河のように魅力あるみなとまちの雰囲気を提供をはじめ、オホーツクの流氷観光拠点や、フェリーやクルーズ船などにより観光客を受け入れる拠点としての役割を果たしてきており、必要な港湾機能や空間整備が行われてきました。

最も行きたいところランキング

順位	地域名	構成比 (%)
1位	北海道	10.4
2位	米国(ハワイ)	6.0
3位	長野県	5.2
4位	京都府	4.8
5位	千葉県	4.2

出典: 日本交通公社資料
(2000年)をもとに作成



タイプ別ランキング

出典: 日本交通公社資料(2000年)をもとに作成

今後は、さらにゆとりある生活への要求が高まることが考えられ、引き続き最も魅力ある観光地として北海道が大きな役割を果たす必要があります。

そこで、旅客船ネットワークの形成を図ることにより、フェリーターミナルと合わせて北海道観光の海の玄関口としての機能を強化します。

また、港湾の立地特性を活かしたにぎわい・交流空間や情報発信拠点、海洋性レクリエーション拠点の形成を図るほか、ユニバーサルデザインの導入によるターミナル等施設の使い勝手の向上、自然環境との調和、景観に配慮した快適な港湾空間を形成することにより、人気のある北海道観光をより快適に楽しめるようになり、国民の暮らしに潤いを与えます。



函館港(赤レンガ倉庫群)



網走港(流水観光船)



小樽港(小樽運河)